

感性豊かな子の育成をめざして

～身近な自然環境とのかかわりをとおして～

目 次

I	テーマ設定の理由	21
II	研究の目標	21
III	研究の仮説	22
	・研究の具現化	22
IV	研究の全体構想図	23
V	研究の内容	24
1	豊かな感性とは	24
2	幼児にとって自然とは	24
	(1) 自然の持つ意味	24
	(2) 身近な自然にかかわることによって	25
3	感性豊かな子を育む環境	26
4	豊かな感性を育む教師の援助	27
VI	保育実践	28
	・長田幼稚園環境マップ	28
	・週案	29
	・指導案(実態・週のねらい・本日のねらい・展開)	30～31
	・検証保育を終えて	32
	【事例1】おたまじゃくしがいっぱい	33
	おたまじゃくしのおかあさんは?(4月)	33
	おたまじゃくしの101ちゃんみたい(5月)	34
	カエルさんうれしそうだった!(6月)	35
	【事例2】地域の自然環境を取り入れて	36
	ハーブの香りのかぎかたは?(4月)	36
	ハーブの香りのかぎかたは!(4月)	37
	【事例3】個の変容	38
	きのうはごめん!	38
	いじめたら可哀想だろう!	39
VII	研究の成果と今後の課題	40
	【参考文献】	40

宜野湾市立 長田幼稚園

安 里 美佐子

知ることによって
 可憐な心は
 育ちます



感性豊かな子の育成をめざして ～身近な自然環境とのかかわりをとおして～

宜野湾市立長田幼稚園 教諭 安里 美佐子

I テーマ設定理由

「おはよう！先生、飼育園の鍵ちょうだい。」“おたよりちょう”にシールを貼り、持ち物の始末をして、幼稚園の一日が始まる。やがて・・・「せんせい“たまご”まだ温かいよ。」卵を大事そうに持つ柔らかそうな小さな手、弾んだ声、キラキラ輝く瞳。

このように自然とのかかわりは、幼児の発達に大きな影響を及ぼすものであるが、本園地域は近年都市化の進展が著しく、幼児を取り巻く自然環境が希薄化し日常生活の中で十分に自然との触れ合いが深められないのが現状である。

幼稚園教育目標の中に「自然などの身近な事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うようにすること」とある。そこで、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」その中でも

- ・ 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づく。
- ・ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気づく。
- ・ 自然などの身近な事象に関心をもち取り入れて遊ぶ。
- ・ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。

の四つに焦点を置き、園の教育目標のひとつである『心情豊かな子ども』とあわせて考えることにした。

幼児は日常生活の中で思わぬ出来事に出会ったり、発見したりした時、自分を取り巻く環境を全身で感じ取り、親しみ、興味や関心を示し驚きや悲しみ、感動や発見を喜ぶ。その中で試行錯誤を繰り返して知的好奇心を満足させ、創造性や感性が培われて行く。

『感性は様々な感情を刻み込んでいくことによって培われる』と言われるが、幼児期に身近な自然環境に直接働きかける体験を積むことは、大変重要なことだととらえる。

そして、幼児が直接触れる体験によって起こる心の動きを教師が受け止め、共感する事や、他の幼児と共感しあう事によりさらに高まり感性が豊かになっていくと考える。

そこで、幼稚園において、幼児が生活の中で自然とのかかわりを深めていくように自然環境にで出合わせさらに幼児の興味や欲求を受け入れるとともに教師の願いをどのように環境の中に含ませていくかを考えることにした。

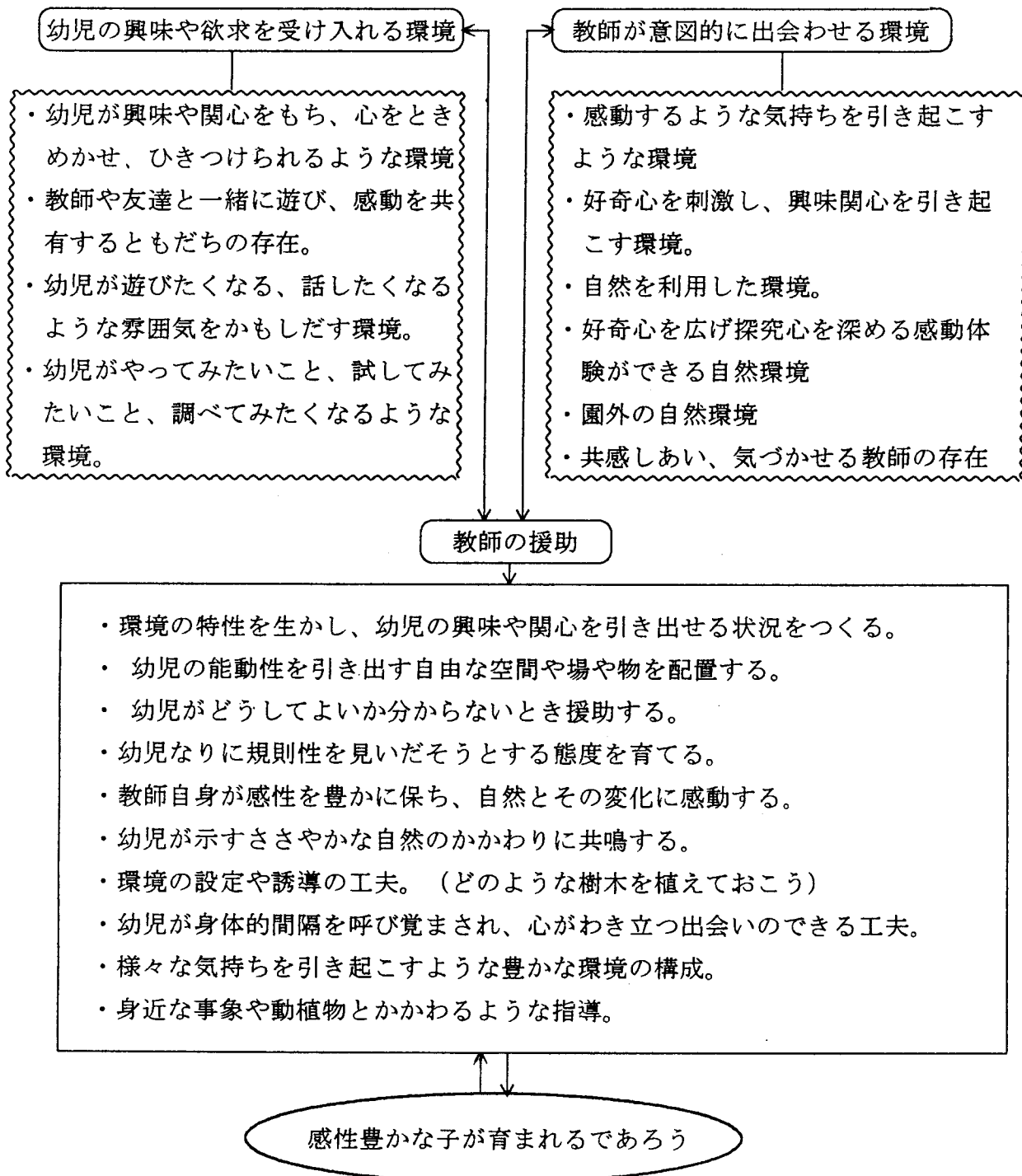
II 研究の目標

園内外の自然環境を活用し、身近な自然と積極的にのかかわらせ直接体験を積み重ねる中で豊かな感性を育む。

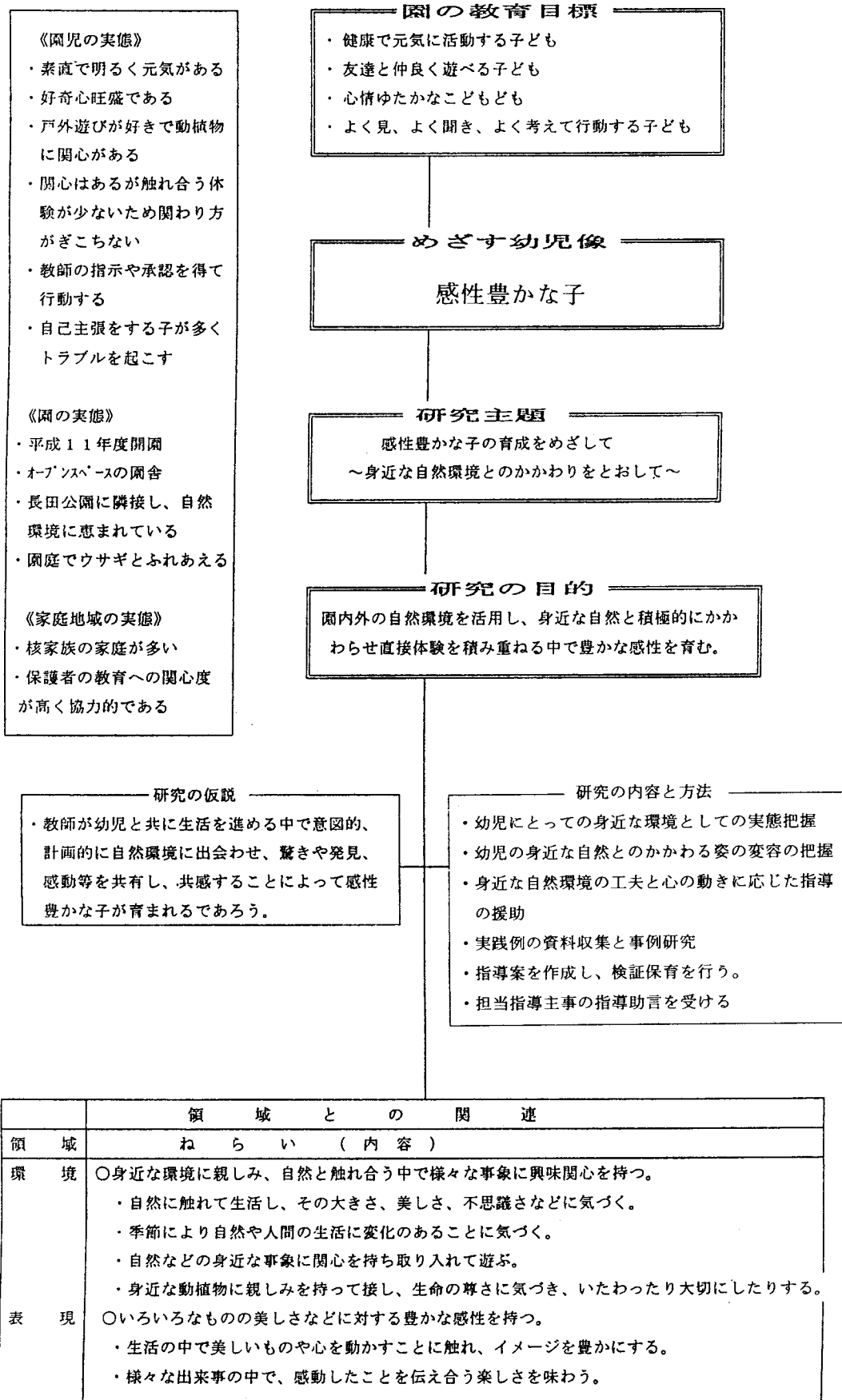
III 研究の仮説

教師が幼児と共に生活を進める中で意図的、計画的に自然環境に出会わせ、驚きや発見、感動等を共有し、共感することによって感性豊かな子が育まれるであろう。

仮説の具現化



IV 研究の構想図

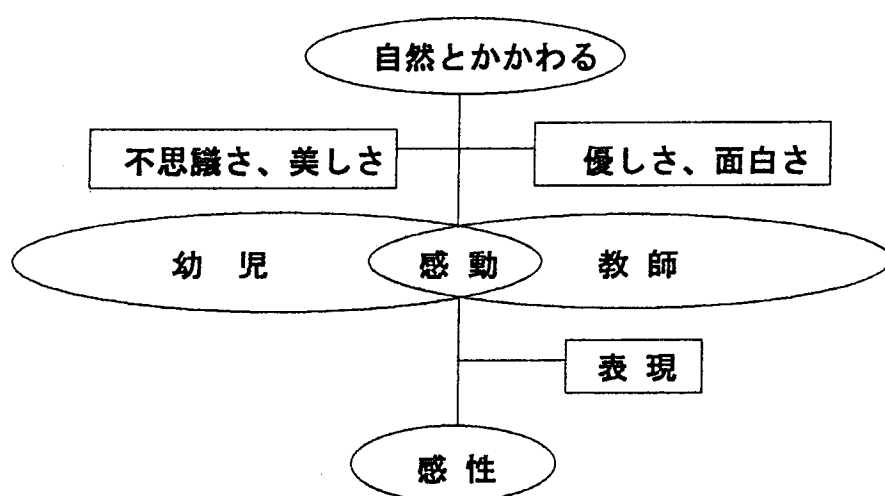


V 研究の内容

1 豊かな感性とは

自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かすものに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどをおして養われる。

幼児が身近な自然環境とかかわり、そこで心を揺さぶられ、何かを感じ、考えさせられるようなものに出会わなければ豊かな感性は育たない。「楽しい」、「面白い」、と幼児が感じ、興味や関心を抱き、主体的にかかわれるような環境が大切である。



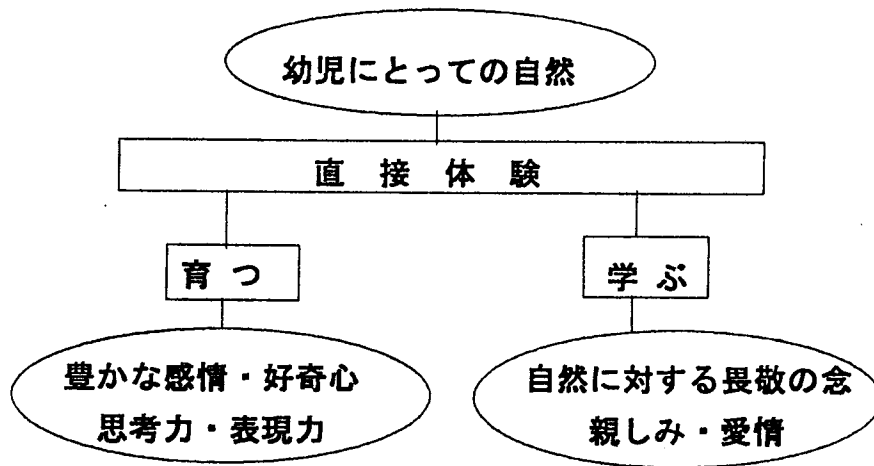
2 幼児にとって自然とは

(1) 自然の持つ意味

幼児にとって具体的には動植物であり、土や砂や光であり、それを含めた野外の自然である。幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心の安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われる。ことをふまえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫することが大切である。

このような自然と触れ合う体験を十分に得られるようにするためには、園庭の自然環境を整備したり、地域の自然とかかわる機会をつくったりして、幼児が身近な自然とかかわることが大切である。また、幼児が心を動かす場面は必ずしも大人と同じでないことに留意しなければならない。このような幼児との出会いを見逃さないようにすることが教師のかかわりとして大切である。

自然と出会い、感動するような体験は、自然に対する畏敬の念、親しみ、愛情を育てるばかりでなく、科学的な見方や考え方の芽生えを培ううえで基礎となるものである。

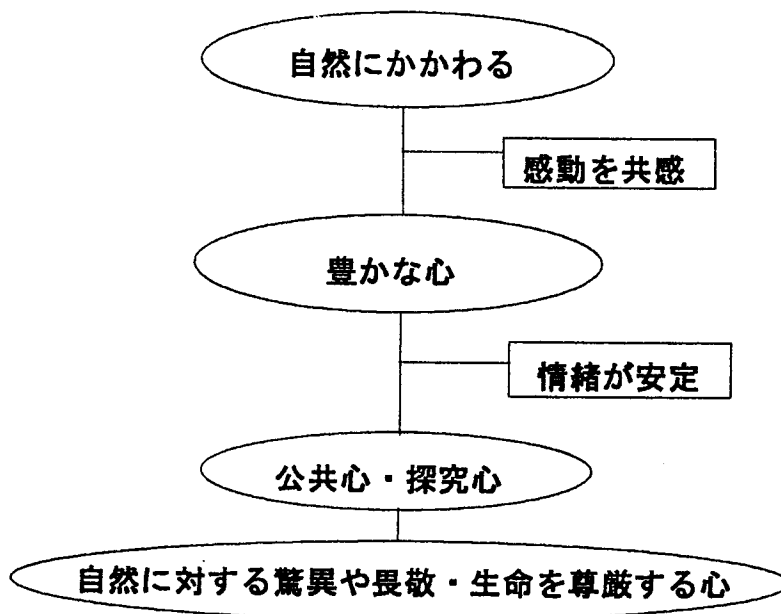


(2) 身近な自然環境にかかわることによって

身近な環境にある様々なものにたいして積極的にかかわろうとする態度は、身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合う事などを通して自分にかかわろうとする意欲を育てるとともに、様々なかかわり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にする気持ち、公共心、探究心、などが養われる。

幼児が日常的に自然に触れる機会をとおして、季節の変化に気づいていくようにすること。そのためには、幼稚園生活の自然の中で季節の変化が感じ取れるようにすることが大切である。

幼児の親しみやすい動植物に触れる機会を持たせることで、身近な動植物に親しみを持って接し、生命の尊さに気づき、いたわったり大切にする。幼児期に生命の営み、ふしぎさを体験することは重要である。

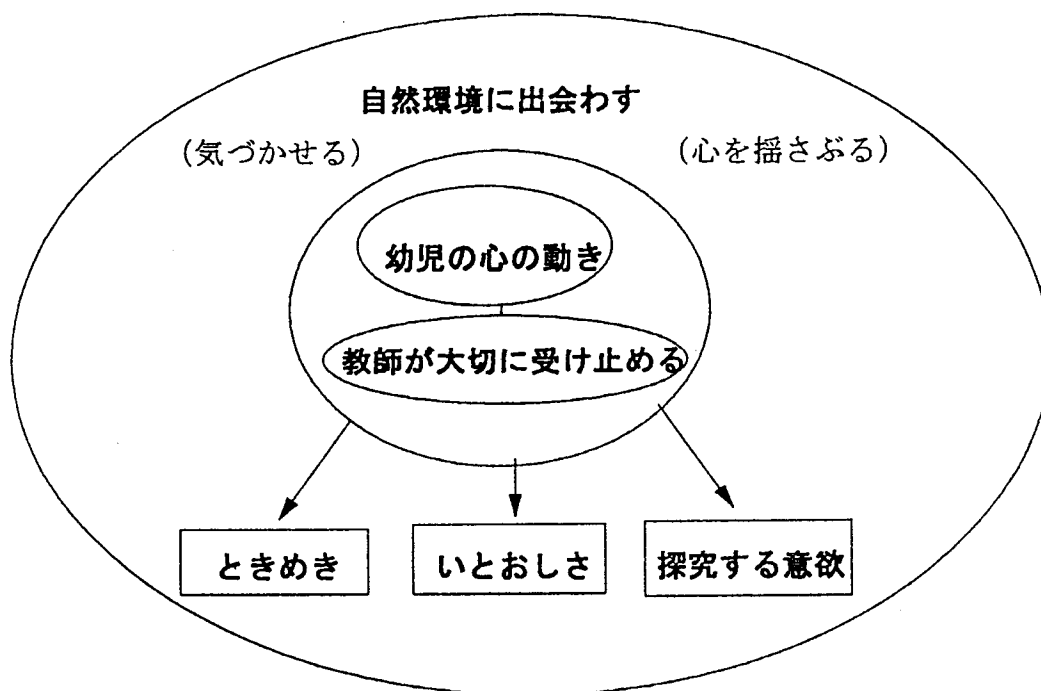


3 感性豊かな子を育む環境

幼児は生活の中で、さまざまなものから刺激を受け、敏感に反応し、あるいは感覚を働かせ、その中にある面白さや不思議さに気づいていく。感性はこのようなものに敏感に反応したり、その中にある面白さや不思議さなどに気づいたりする感覚ととらえられている。

このような感性を育てていくためには、なによりも幼児を取り巻く環境を重視し、様々な刺激を与えながら幼児の興味や関心を引きだし、幼児が感動するような気持ちを引き起こすような魅力ある豊かな自然環境に出会わすことが大切である。

幼児の感性を豊かにすることはどのような環境の下で生活しているのか、周囲の人物・物的環境とのかかわりの積み重ねと密接に関係している。そこで、教師が幼児の感じている心の動きを受け止め、理解することが大切である。



木のぼり大好き！

「だって先生より大きくなれるんだもん」

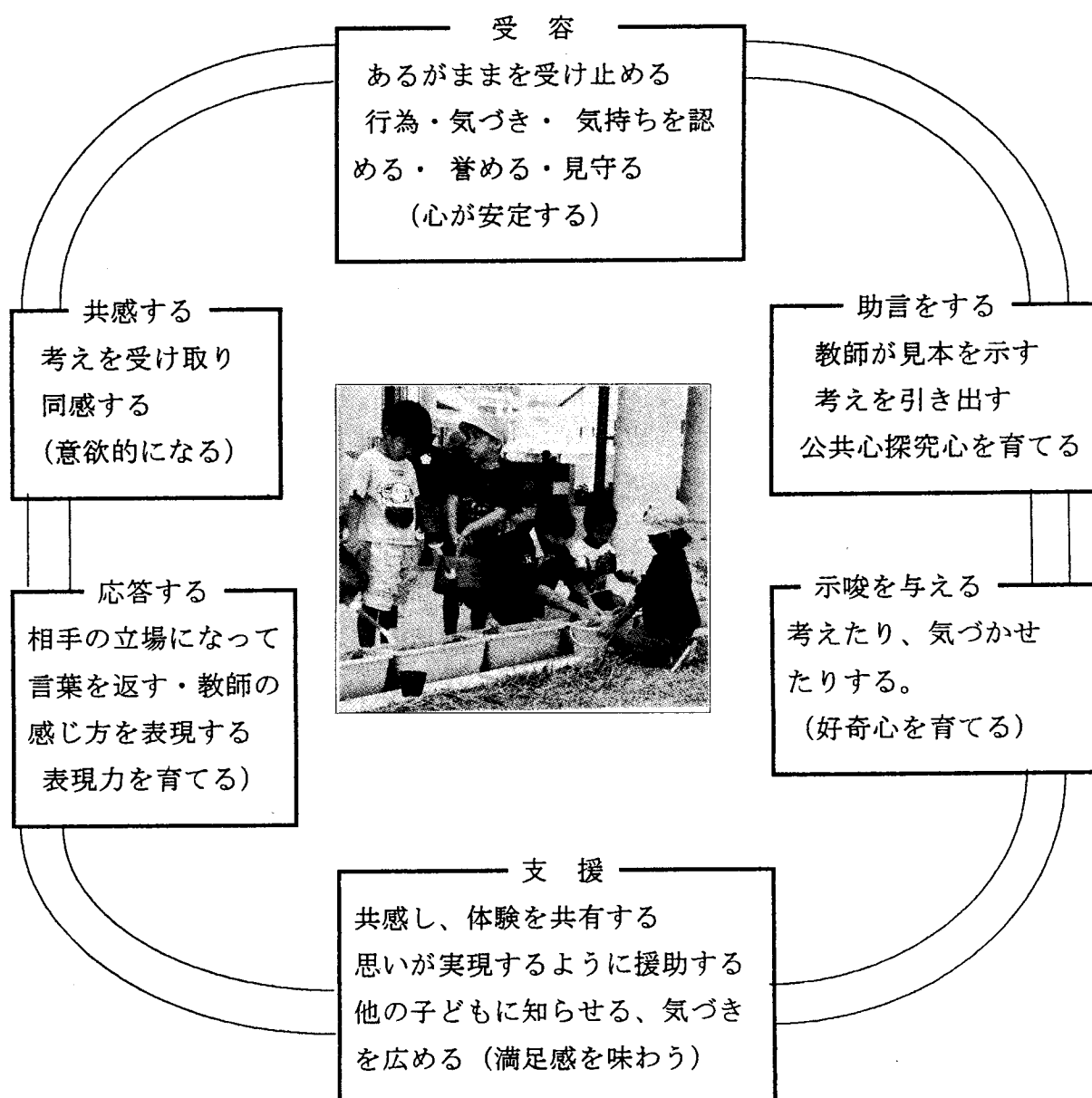
「涼しくてとても気持ちいい……」

「遠くの海まで見えるよ」

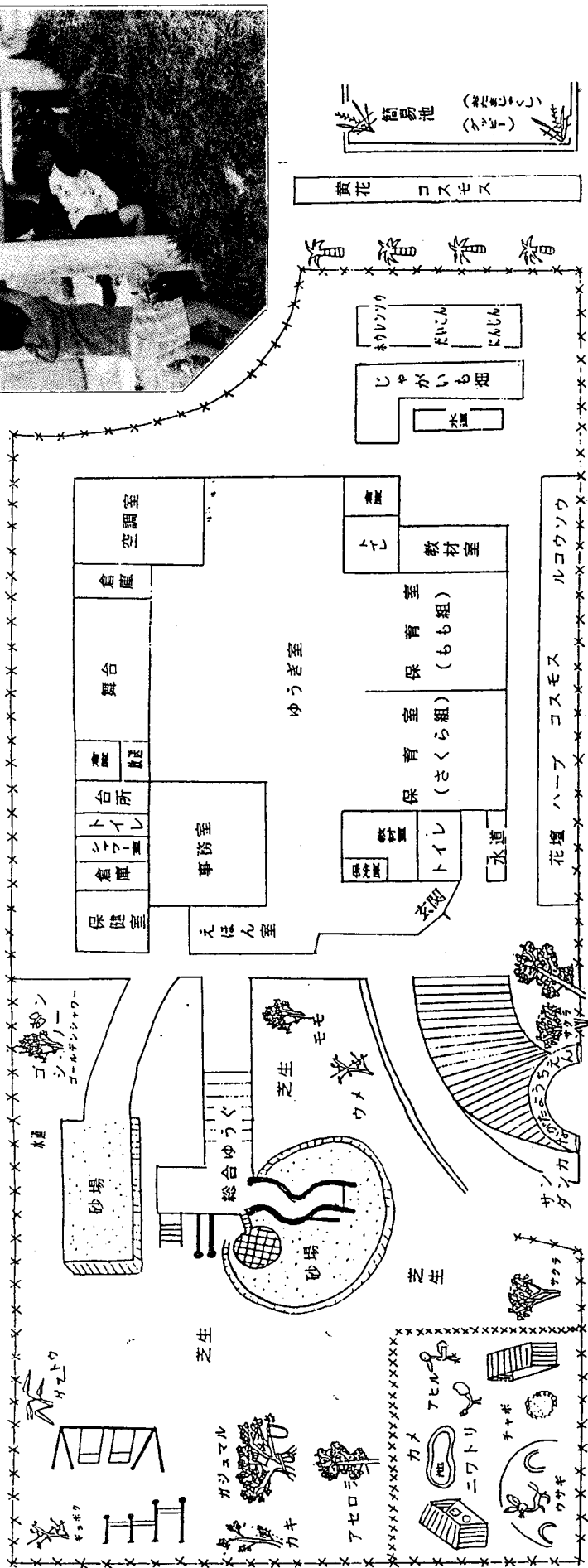
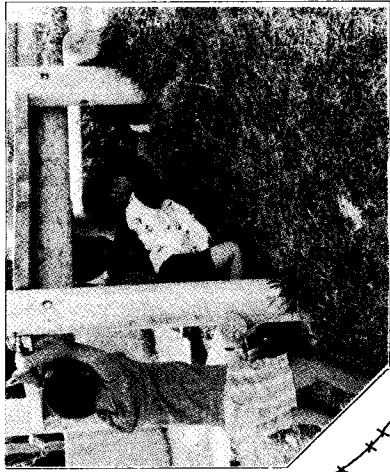
「なんだかおさるさんになった気分」

4 豊かな感性を育む教師の援助

- 環境の特性を生かし、幼児の興味や関心を引き出せる状況をつくる。(受け止める)・(支援)
- 幼児の能動性を引き出す自由な空間や場や物を配置する。(受容) (支援)
- 教師自身が感性を豊かに保ち感動する。(共感) (応答)
- 幼児がちょっとした折りに示すささやかな自然に共鳴する。(応答)・(共感)
- 幼児が身体的間隔を呼び覚まされ、心がわき立つ出会いのできる工夫。(示唆)
- 様々な気持ちを引き起こすような豊かな環境の構成。(支援)
- 身近な事象や動植物とかかわるような指導。(助言)・(支援)



長田幼稚園環境マップ



触れ合える草木

モモ	サクラ
サンダンカ	ウメ
アセロラ	クロキ
レモングラス	ホルト
トウワタ	ヤシ
ホウセンカ	タチアヲユキ
センナ	セキダン
ジュズダマ	ゲットウ
トウワタ	カタバミ
リュウキウココスミレ	

蝶の食草

①ホウライイカガミ	(オオゴマダラ)
②トウワタ	(カバマダラ)
③ギョボク	(ツマベニチヨウ)
④ホトトギス	(ルリタテハ)
⑤ゴウゴン	(ウスキシロチヨウ)

タイワレンギ

センナ	リュウキウココスミレ
ジュズダマ	
ゲットウ	
トウワタ	
カタバミ	
リュウキウココスミレ	

ツワブキ

キンレンカ	フウセンカズラ
キバナコスモス	キバナイッペイ
ガジュマル	モモタマナ

タネ

タネ	タネ
----	----

<p>幼児の姿</p>	<p>ねらいと内容</p> <p>●お店やさんごっこを楽しみにし、身近な素材を工夫して品者づくりに取り組んでいる。 ●飼育動物の世話をしたり、園庭にうさぎをだして抱いたり、えさをやったりして触れ合って遊んでいる。触れ合うことで気づきや発見する姿が見られる。 ●友達と一緒にスリル感のある遊びに挑戦する姿がみられる。 ●ホッピングや鉄棒、竹馬、なわとび等に自分なりの目当てをもってがんばって取り組んでいる。</p>				<p>○イメージを共有し、膨らまして含みながら役割を決め分担、交代、協力などをしあいグルーブで遊ぶ楽しさを味わう。 ○自然に触れ戸外で元気よく遊ぶ。 ●売りの遊びの中で、数や文字に親しむ。 ●この遊びに必要な言葉が分かり使用。 ●飼育動物の世話をし、成長や変化に気づく。 ●戸外で思いきり体を動かして遊ぶ。 ●自分なりにがんばってできた満足感を味わう。</p>			
<p>週の行事</p>	<p>13日(月)</p> <p>●全体清掃(8:30～9:00)</p>	<p>14日(火)</p>	<p>15日(水)</p> <p>●お店やさんごっこを楽しむ</p>	<p>16日(木)</p> <p>●お弁当</p> <p>●検証保育</p>	<p>17日(金)</p> <p>●誕生会</p> <p>●検本貸し出し</p>	<p>18日(土)</p> <p>●保育参観及び懇談会</p>		
<p>□予想される活動 ◆環境構成 ☆教師の援助</p>	<p>体を十分に動かして遊ぶ</p> <p>◆意欲的に取り組んでいる遊びが継続するように遊具や用具を使いやすく置き、子どもたちといっしょに遊びの場を作っていく。 ☆試したり挑戦したりしていろいろな遊びの動きを認めたり励ましたりしていきいく。 ☆体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わわせながら自己発揮や満足している姿を認め、遊びの楽しさを共有する。 ☆遊具、用具の安全な乗り方、使い方を再度みんなでお話し合う。 ☆工事車両の往来がはげしいので安全面に配慮する。</p> <p>お店やさんごっこを楽しむ</p> <p>◆ごっこ遊びが楽しく展開するように、看板や値札、金庫などを作るための材料を用意しておく。 ◆BGMを流したり、エプロンをつけたりして店の雰囲気づくりをする。 ☆子ども同士で役割を話し合ったり決めたり、協力しながら遊びを進めたりしているようすなどを認め、ひとりひとりが役割を持ち、積極的に遊びに参加できるようにしていく。 ☆ごっこ遊びの準備やかたづけを友達と力を合わせて最後までできるように適宜援助していく。</p> <p>動植物とふれ合って</p> <p>☆飼育動物や栽培物の成長や変化への関心や親しみの気持ちを持てるようにする。 ☆季節の変化が感じ取れるように、身近な自然にふれる機会を多く持つようにする。 誕生会に参加する ☆楽しいプログラムを考えて誕生会を祝う。 ☆自分の得意とするものをみんなの前で表現する喜びと満足感を味わわせる。 リースづくりを楽しむ ◆親子で楽しくリースづくりができるように材料や用具を用意し、場の設定を考慮する。</p> <p>基本的な生活習慣</p> <p>●話を静かに最後まで聞く。 ●手あらい、うがいをする。 ●うわばきを忘れずに履く。</p> <p>花城大樹くんの目標・担任のねらい</p> <p>友達といっしょにいろいろな遊びを楽しむ。</p>							

平成11年12月16日(木)
 在籍男児14名 女児16名
 合計30名
 担任 安里 美佐子

～身近な自然環境とのかかわりをとおして～

1. 実態

- 元気に「おはよう！」「おはようございま〜す」とあいさつがとてても上手で、いつも気持ちよく一日を始められる。「おたよりちよう」にシールを貼り、持ち物の始末をしたら、思い思いに活動を始める。
- 落ち葉をカタログや電話帳にはさみ、押し葉にしている。
- マルチパネルや大型積み木などを組み立て、上手に遊んでいるが遊んだ後の片付けは保育者に促されながらやる姿が多々ある。
- 園庭にある大きなガジュマルの木のぼって“高いところ”感じ、自然に触れ満喫している。
- 飼育園から園庭にうさぎをだして抱いたり、えさをやったりして触れ合って遊ぶ。そのとき「〇〇ちゃん」は「〇〇のうさぎ」と暗黙のうちに決まっている。
- 室内では“魚釣りごっこ”が盛んである。ブルーシートを海に見立て、そこは“魚釣り場”ゆったり釣り糸を垂らして釣りを楽しむ大人顔負け姿がある。
- 廃品を利用して、思い思いに工夫し、ロボットを作ったり、自動車を作ったりしている。ひとりひとりの工夫や発想を認め、満足感が味わえ「また作りたい」と意欲がわくようにする。
- お店屋さんごっこに向けて期待をもち、自分の好きなコーナーでそれぞれのイメージを出し合いながら品物作りを楽しんでいる。
- ホッピング、スクーター、縄跳び、竹馬、遊具や用具を使ったあそびや、じゃんけん陣取り、メガネ陣取り、ルールのある遊びをもするようになってきた。

コスモスの花を食べてしまったウサギ

自分たちで飼っているウサギが、自分たちがで植え、育てた“コスモスの花”をむしゃら食べた。「あ〜あ〜先〜生、先生」「コスモスが食べられ〜」「コスモスが、かわいそう」「もう〜ウサギちゃん“おしおき”“おしりペンベーン”」と言いががらも、気持ちいい小ウサギを食べてもいいのか、悪いのか判断できな小ウサギを理解できる立場にいる。分らないものへ理解を示し、許してあげて「やさしい心」が育っているように感じた場面であった。

狂い咲きの桜

先生、「桜が狂い咲きをしているよ」登園の途中発見したK君の報告です“気づいた”K君に誘われ7、8人の子どもが見に行く。「本当だ！本当だ！かわいいいい！」小さい手で包みこむように香りを嗅いだり……。「かわいいいい」と感じる気持ちと、「そう」と扱う優しい心、そして感動する心が育っている。

2 週のねらい

- イメージを共有し、膨らまし合いながら、役割を決め分担、交替、協力しあいグループで遊ぶ楽しさを味わう。
- いろいろな遊びに挑戦する。



3 本日のねらい

- 自然に触れ戸外で元気よく遊ぶ。
- いろいろな遊びに挑戦する。

〈内容〉

- 自分なりにがんばってきた満足感を味わう。

4 展 開

時 刻 予 想 さ れ る 活 動 ・ 流 れ

- 8:30
 - ◎登園する
 - ・あさのあいさつをする
 - ・所持品の始末をする
 - ・おたより帳にシールを貼る
 - ◎朝の活動
 - ・草花、野菜への水やり
 - ・飼育動物の世話をする
 - ◎好きな遊びを楽しむ
 - 《室内》
 - ・大型積木・エイトブロック・マルチパネル
 - ・サーフボード
 - ・落ち葉で遊ぶ・ままごと
 - ・チラシ・ペットボトル・その他廃品を利用
 - 《戸外》
 - ・総合遊具・ブランコ・鉄棒
 - ・砂場道具を使って遊ぶ
 - ・竹馬・縄跳び
 - ・三輪車・スクーター・ホッピング
 - ・じゃんけん陣取り・メガネ陣取り
 - ・飼育動物と触れ合い遊ぶ
- 10:00
 - ◎片付けをする
 - ・片付けをすませた子は部屋で座って待つ
 - ◎先生の話聞く
 - ・本日の日程について話す。
 - ◎先生の話聞く
 - ・自然に触れて遊ぶ・弁当をいただく
 - ◎降園する

◆ 環境厚生 ☆ 教師の援助

☆朝の出会いを大切にし一人一人と笑顔であいさつを交わし、子どもの話したい気持ちを受け止め十分に視診を行い健康状態を把握する。
 ☆友だち同士誘い合って、活動し始める姿を見守ると共に自分から遊びに取り組みないう子へは、一緒に考えたり、助言したりしていく。

体を動かして遊ぶ

◆運動遊びに必要な遊具や用具を準備しておく。

◆幼児が十分に身体を動かして遊べるような場や時間を確保しておく。

☆体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味あわせながら自己発揮や満足して遊ぶ姿を認め、遊びの楽しさを共感する。

☆ルールがあることを共通理解していけるように場をとらえ、援助する。

作って遊ぶ

◆遊びに必要な材料や用具を、取り出しやすいように準備し、考えを出し合いながら、好きなものが作れるように、環境を構成していく。

◆廃品など身近な素材を工夫して作る。

☆子どもたちの発想を大事にし、イメージにあったものが実現できるような、場をとらえ提示していけるようにする。

☆パウチの取り扱いは教師が見守る中でやる。

☆遊んだ後の片付けは、進んでやっている幼児や友達同士協力しあっている姿を認め、称賛しながら教師も一緒に片付けていくようにする。片付けると気持ちのよいことに気付かせていく。

身近な動植物に触れ合っ遊ぶ

☆動植物の世話やかかわりを持つことで愛着や発見、生命の尊さや思いやりなどを、感じる事ができるように、発見を一緒に喜んだり、共感したりする。

まごこと遊ぼう

◆やりたい遊びがいつでも始められ、また片付けられるよう、遊具や用具は子どもと共通理解して決めた場所におく。
 ☆自分の考えを伝えたり、友達の思いも受け入れ足りして遊べるように、必要に応じて援助していくようにする。

砂で遊ぶ

◆大きな山や川が作れるように砂場道具を用意する

☆片付けも自分たちで協力してできるように、種類別に表示しておく。

検証保育を終えて

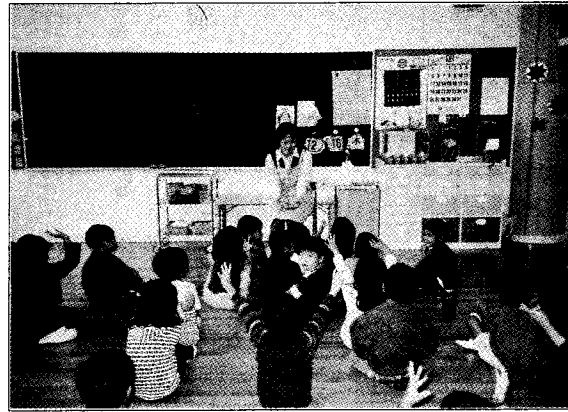
①保育者の反省

- ・「感性豊かな子の育成をめざして」を研究テーマに設定し、サブテーマに～身近な自然環境とのかかわりをとおして～そして、

○自然に触れ戸外で元気よく遊ぶ。

○いろいろな遊びに挑戦する。

を“本日のねらい”におき検証保育をしたのですが園、教師間の協力体制があなければ今日の保育は成立しないことを痛感し感謝してる。



- ・4月に開園し、園の周りは自然がいっぱいあったが校庭や運動場の整備のため活動や行動範囲が規制されて残念だ。
- ・自然に触れ戸外で元気よく遊ぶ。飼育園から園庭にうさぎをだして抱いたりえさをやったりして触れ合って遊ぶ。朝、お父さんに叱られて機嫌悪く登園したMちゃんもウサギを媒体することにより気持ちがやわらぎみんなと元気に遊べるようになった。自然は教師よりも「特効薬」をもち、すごいと思うとともに謙虚に受け入れようと思った。しかし、ウサギの扱い方は上手になってきているがウサギの側にたった指導はしているだろうか確認が必要だ。
- ・ホッピング、スクーター、縄跳び、竹馬に挑戦して遊ぶ。保育者が励まし認めることにより、挑戦する意欲も高まり、できるようになってきた。
- ・園庭でメガネ陣取りをT教師と楽しむ。メガネ陣取り（ルールのある遊び）は保育者が一緒だと楽しめるが、保育者が抜けると遊びが成立しない。子供同士で遊べる指導の工夫が必要である。

②指導助言

《細かい環境の配慮がかけている。》

- ・子供の視座に立って、遊びたくなる環境、かかわりたくなるような環境作りが必要。
- ・既製の環境が多く、自然がガジュマルしかない。手っ取り早いどろんこの環境は？
- ・生活の中に取り組んで始めて感じたり考えたりする。（ラミネートにした葉っぱは自分たちで拾って来たものだともっと大事にあつかったかも…。）
- ・一日の流れの中で朝の視診の時、どこにポイントをおいているのか。例えば、ジャンパー、パーカーを着けて遊んでいる。片付けの環境はあるのか。
- ・片付け（ほうき・ちりとり）子供が掃除したくなる環境。一人一人が必要を感じてやりたくなる環境を意図的につくる。

【事例1】おたまじゃくしがいっぱい

— おたまじゃくしのおかあさんは？（4月） —

今年4月に開園し、幼稚園のまわりは、まだ整備されない状態で入園式が行われた。園庭の周りや、学校の運動場の窪地に雨水がたまりオタマジャクシがいっぱいだ。入園まもなく、（写真①）

「先生、オタマジャクシがいっぱいいいたよ！」一人の子どもの声に子ども達が集まって来た。

「先生、オタマジャクシ見たい」

「先生も見たい」子ども達に誘われてでかける。

「ワァいっぱいいるね」しばらく見ている・・・と

「先生、オタマジャクシってジャンプするんだね」

「先生、オタマジャクシの赤ちゃんがいるよ」

「お母さんもいるかなあ」

すかさず、（小動物が好きで、くわしいA君）

「おかあさんはカエルだからいないさあ」

私の顔を見て「???・・・いるよねえ」

「そうだねえ、A君どうですか」

「だから、“カエル”だからいないさ～。兄ちゃんが言ってたよオタマジャクシは卵から生まれるって。だからいないさ～わかった？」（写真②）

「じゃカエルはどこにいるの？」

「カエルは、朝早くきたらいっぱいいないているよ“ゲロゲロ”って♪カエルのうたがきこえてくるよ」得意気に歌うA君。他の子も一緒に歌う。

「明日は早く幼稚園にきてカエルを見よう」

「じゃ先生も早く来よう～と」

「明日はカエルに会えるかな」

---教師の読み取り・援助---

- 教師間で安全に配慮して、活動していい範囲を認しておく。
- 子どもの発見を受け止め教師も共感し、一緒にかかわるようにする。
- 気づきや発見に共感する好奇心を培う
- A君を認め、受け止め、対応を見守る。
- 子どもたちに問題を投げかけ、子ども同士で解決できるように示唆を与える。
- 教師がA君を認めることによって子ども同士で認め合うようになり、信頼関係を築けるようにする。そして、A君に自信を持たせていくようにする。
- 共感し、期待を持たせる

〈考 察〉

子どもの発見や気づきを受け止めて感動を共感することにより教師との信頼関係が築かれる。また、友達を認めたり、認められたり、教えたり、教えられたりする中でその子のよさを他児へ知らせていくことで、友達とのつながりを深めたり自信につながったりする。

オタマジャクシの生態をすでに知っているA君を理解し認め、誉めることによって、満足感を味わわせ、探求する意欲が高まっていく。

おたまじゃくしの101ちゃんみたい (5月)

毎日、網と観察ケースを持って出かける。最近はおたまじゃくしはどこに行けば、どのようにしたらたくさんとれるのかわかるようになってきた。そして卵から生まれることも。

「先生、みて、みて、すご〜い。オたまじゃくしがたくさん生まれているよ」「ホント！すご〜い」

「オたまじゃくしに変身したね」(写真③)

水槽の中は孵化したばかりのおたまじゃくしでいっぱいです。昨日、子どもたちが両手いっぱいを持ってきた卵がおたまじゃくしに変身しているのです。

「小さいね」「かわいいね」

「あかちゃんだけど泳ぎがうまいね」

「しっぽをふりながら泳いでいるよ」

「いっぱいいるね」

「おたまじゃくしの101ちゃんみたい」

「おたまじゃくしの101ちゃん知っているの?」

「知っているよ。だって絵本でみたことあるもん」

「いいなあ！先生もみたいなあ」

「いいよ、絵本見つけておくからね。先生、みんなにも見せたらいいさあ」

「そうだね、いい考えだね」

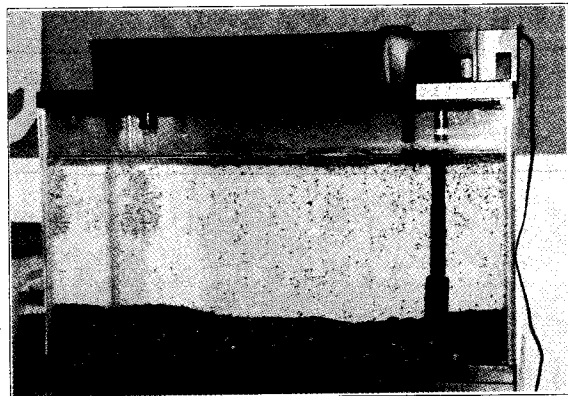
しばらくして、“絵本の部屋”に“おたまじゃくしの101ちゃん”が準備された。みんなで絵本を楽しむことができた。

教師の読み取り・援助

- 直接に体験することで知識を得ることができた。
- 子どもの気づきや発見を受け止め、同様な表現をすることに感動を強調し共感する。
- 卵(動かないもの)からおたまじゃくし(動くもの)に変わったことに不思議さを感じている、しかも持ってきて1日で。
- 気づきを受け止め、理解を示すことにより考えを共有することができる。
- 誉められ、認められることによって次の活動への意欲が育つ。
- 絵本を読むことで感動を共有することができ心が安定する。

〈考察〉

子どもたちにとって、おたまじゃくしは身近な自然にあり、身近な存在でもある。これまでの、絵本や紙芝居やうたの中のイメージが直接体験することによってより身近なものとなる。不思議さや、感動する喜びを積み重ねていくことにより、興味や関心が広がっていき次の活動(紙芝居やえほん)へ発展していった。



(写真③)

カエルさんうれしそうだった！（6月）

オタマジャクシからカエルとだんだん成長の過程もわかるようになり幼稚園での活動が盛んになった頃。「先生、昨日、お母さんと弟と一緒にカエルを逃がしにきたよ。お母さんがね、カエルになったから水槽では狭くてかわいそうだから逃がした方がいいって」「そう、カエルさんどうしていた？」「うれしそうにピョンピョンとんでいったよ」「よかったね。良いことしたね」「うん」その日も、うれしそうに網と観察ケースを持ちオタマジャクシを取りにでかけた。

教師の読み取り・援助

- 子どもの発達を理解する。
- 子どもの話に耳を傾け、子どもの気づきや気持ちを受け止める。
- 質問することで考えを引き出し、同意する事で気持ちを共有する。
- 子ども本人や家族を誉めて認めてもらったことに満足しているようだ。

〈考 察〉

- 幼稚園で体験することで家庭でも活動が広がり、オタマジャクシを媒体に親子の共通話題が持てた。
- 自分で身近に触れ合うことによって愛情がわきいとおしいという感情が育った。また、かかわることによって、生物の生き方、生命の尊さを学ぶことができた。
- 自分を誉めてもらい、家族を認めてもらうことで教師との親近感が生まれ信頼関係が深くなってきた。



(写真①)



(写真②)

【事例2】地域の自然環境を取り入れて

ハーブのかおりのかぎかたは？（4月）

「春のえんそくはハーブ園に行きます」「ワァ」子どもたちは一斉に歓声をあげる。

「先生、ぼくハーブティ飲んだことある」子どもたちは口々に「飲んだことある」の連発。

「先生も飲んだことあります。おいしいよね！いい香りがして」

「ハーブティって何からできているか知っていますか？」

「？・・・・先生、ヒント」

「幼稚園にも少しだけではありますがどこかにあります。はい、これです」

「先生、それ“ミント”でしょう」

「すごい！よく知っているね」

「だってうちにもあるもん。お母さんが好きだよ」

「そう、いいね。お母さんってハーブの名人かもね素敵だね」

「もう一つ質問です。先生も、明日ハーブ園の方から教えてもらおうと思っているのですが、香りの“かぎかた”わかるひと？」

教師の、妙な質問に子どもたちは「きょとん」・・

「では、ハーブ園では、よーくお話を聞くようにしましょう。それがヒントです。」

教師の読み取り・援助

子どもに期待を持たすように導入する。

- 子どもたちの声を受け止める。
- 共感し、体験を共有する。
- 話を切り替えることで興味を本題に向けるようにする。
- 園内にあるハーブを取ってきて準備しておく。
- 子ども気持ちを受け止め、誉めることによって認める。
- 話題を膨らませることによって興味や関心を引き起こす。
- 課題を共有する。
- 教師が示唆を与えることによって考え、調べる機会をつくる。



(写真④)



(写真⑤)

ハーブのかおりのかぎかたは！（４月）

きょうはいい天気！遠足びより、ハーブ園にさあ出発。子どもの徒歩で15分くらいで到着です。（写真④）

ハーブ園の方の説明がはじまりました。

「これがスペアミントで、レモングラス、ローズマリー……………」（写真⑤）

そしていよいよ

「ハーブのかおりの嗅ぎ方はね、ちぎったり、手でつぶしたりしないで、それから、鼻を近づけたりしないで、手で優しく撫でるようにして、その手を鼻の近くに持っていく。そうするとほ～ら、いい香りでしょう。」「みなさんもやってみよう」

「ほんとだー。いい香りだね」

「おばさん、頭がいいね」

いろいろな種類のハーブにであうたびに、
「手で優しく撫でるようにして、その手を……」と
口々にいいながらのハーブ園での充実したひとときでした。（写真⑥⑦）

何日かして……「ハーブ園に、お母さんで行ったよ！」

教師の読み取り・援助

- 前日、導入に期待をもち出かける。
- 子どもと一緒に頷きながら説明を聞くことで共感する。
- 子どもと感動を共有する。
- 課題を解決し、“わかった”ことで満足し、達成感が培われた。
- 「良かったね。と共感する」

〈考 察〉

- 身近な植物に出会い、触れ合うことで「ハーブとは？」「香りのかぎ方」などかわり方を学ぶことができ
- 教師が問題を投げかけ、課題を共有し、自己解決しようとすることによって思考力が育った。また、課題を解決することで、達成感、成就感を味わうことができた。
- 地域にある「はーぶ園」利用し、出会わすことにより「今度はおかあさんで行きたい」と活動を広げ感動を家族で共有することができた。



（写真⑥）



（写真⑦）

【事例3】個の変容

きのうはごめん！

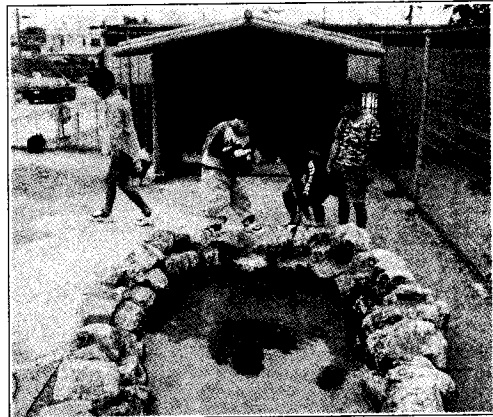
Y君ってこんな子

気いっばいに園庭をかけずり回って遊ぶ

- 小動物に興味・関心がある
- 保育園での集団生活の経験がある

入園当初

- ウサギやアヒルを追いかけてまわしたり、ニワトリやチャボを取り押さえ、飛ばしたりして遊ぶ



6月頃

- 小学生のお兄ちゃんニワトリを可愛がらないよ！

育ち

“触れ合う”という直接体験をとおして、生き物を可愛がり、大切に作る心が育った



《Y君の様子》

おまえもつかまえろ！（4月）

長田幼稚園の飼育園は子どもたちがその場で直接触れ合えるようにつくられている。小動物が好きなY君は恐がることなく飼育園に入っていく。かえって、ニワトリやチャボ、ウサギ逃げる動物を挑発して喜んでいる。「おまえもつかまえろー」動物が反応すればするほど追いかけてまわす。

《援助》

- 動物に興味や関心があることを受け止める。
- 可哀想だねいやがっているよ。Y君だったらどんな気持ち？示唆を与える。

ストレスで卵も産まなくなる！

「昨日ね、飼育園でね……」と、名前は特定せずに、子どもたちの前で昨日の出来事を話す。当事者のY君は教師の話に聞き入る。その中で、他児の

- 事例をだし、子どもたちに示唆を与える。

声として「可哀想だよね」「ニワトリも追いかけられたらいやだよね」「うさぎさん、ギュと捕まえられたら苦しいよね」「ニワトリ、いじめたら攻撃するってよ」「動物は、優しい子が好きだよね」「ストレスで卵も産まなくなるんだよね」

Y君、神妙な表情で、教師の話と同様に子どもたちの声にも聞き入る。

—— たくさん、たまご産めよ！ ——

動物が大好きなY君、今日も飼育園にと、とびだしていく。これまでとは様子が違う。「昨日はごめん！」“ぶっきらぼう”に言っているがY君の精一杯の表現だろう。

「たくさん、たまご産めよ！」優しく声をかけ、触れ合うY君であった。

—— いじめたら可哀想だろう！ ——

「先生、お兄ちゃん達が、ニワトリを追いかけているよ。早く来て！」「お兄ちゃん達、いじめたら可哀想だろう、ニワトリだって追いかけられたらいやなんだよ。ストレスたまって“卵”産まなくなるからな」

Y君の声に、小学生が示唆され、追いかけることをやめたことに満足をしているようだ。

- 子どもたちの声に共感しながら助言をする。
- Y君を見守る。



- Y君の気持ち・行為を認め、誉めてあげる。
- 優しく見守る。

- Y君の行為に共感し、見守る。
- Y君の気持ちが小学生に伝わるよう支援する。
- 「いいことをしたね」と誉める。

〈考 察〉

• かかわり方を知らず直接体験をすることで、自分より弱いものへのいたわり、いとおしさ、優しさ、扱い方、大切にすることを学ぶことができた。

• 「ストレスによって卵を産まなくなる」という、子どもからの具体的な表現は、他の子ども、小学生にとっても衝撃的であった。

• 問題や課題を教師や、友だちで共有し、解決することによって信頼関係ができ満足感を味わうことができたようだ。



Ⅶ 研究の成果と今後の課題

1 成果

幼児がありのままの姿を受け入れてもらえる教師の存在は、安心して自己をだしていける大切なものである。また、共に生活を進める中で自然との出会いを大切に、驚きや発見、感動等を共有し、共感することによって、より心地良い生活を築いていく中で温かい信頼関係が生まれ、豊かな感性が育まれるであろうことがわかった。

- ・幼児が生き物と直接触れ合う体験をすることによって、相手の気持ちを共感できるようになり、思いやる気持ちが生まれ、命を大切に作る姿が見えた。
- ・教師が一人一人の幼児の心を受け止めることによって安定し、感動を共有することにより信頼感が生まれ充実し、またやろうという意欲が育った。
- ・飼育スペースをできるだけ、自然の状態に触れ合えるようにすることで子ども達も生き物も自然にかかわることができ、生き物の扱い方が上手になった。
- ・自然や友だちとの出会いの中で自分なりのイメージが明確化され、課題を見だし、友だちと共に探索したり、解決したりする中で思考力の芽生えが見られ、達成感、成就感を味わうことができた。
- ・幼児が自然に触れ合うことで心が安定し、ゆとりが生まれ、さらに興味や関心がわき、自然に対して自分なりに十分かかわることができているように見られた。

2 今後の課題

- ・幼児一人一人の心の動きを理解するとは、その理解の方法の追求。
- ・一人一人の発達にあった豊かな経験ができるような環境の工夫。
- ・教師自身が動植物の生態にあった育て方を学ぶ。
- ・幼児の姿をもとにした環境の準備や対応、再構成。
- ・教師自身の感性を高める。
- ・幼児の育ちに合わせた一日の流れについて、指導のあり方を考える。

環境が幼児一人一人に生きて働きかけているその背後には教師がその環境をどれだけ大切にしているか、自然に対するそのものが大きく影響を及ぼしている。今後も自然とかわりながら、より豊かな心を育む保育をしたい。

☆おわりに

海の側で波の音を聞いて育った人は、波の音を聞いていると落ち着くという。また、いつでも聞いていたいという。私にとって、自然は心を癒やしてくれるものです。同様に、いつでも優しい言葉かけで励まし、ご指導くださいました川崎幼稚園教頭、島袋浩子先生、研修の機会をくださいました宜野湾市教育委員会、長田幼稚園の諸先生方に感謝しつつ…。子どもと共に体験を楽しみ、感動を味わえる教師でありたいと思います。本当にありがとうございました。

【参考文献】幼稚園教育要領解説 センスオブ・ワンダー（レイチェル・カーソン）